

いすみ市有機農業実施計画の概要

農林水産省「みどりの食料システム戦略緊急対策交付金（有機農業産地づくり推進事業）」の取得に伴い、令和6年度に、生産者の代表や有識者、JA、生産や農地、流通や消費に関わる方々を委員とするオーガニックビレッジ検討委員会を3回開催し、同事業2か年の活用と自立的な3か年を含む計5か年の事業を「いすみ市有機農業実施計画」として策定。令和11年度までに水稲と野菜で、一層の有機農業拡大を図る。

現状と今後の課題

有機水稲

- 田作り、土づくりの感覚と技法の習得
- 規模の制約
- 用水の確保
- 技術指導体制の維持
- 気候変動対策

有機野菜

- 経営モデルが未構築
- 研修体制が未整備
- 農地の確保が困難
- 共同出荷や集出荷体制が未整備

5年後に目指す目標

有機農業の面積拡大

(R6) 53ha → 目標値 (R11) 60ha

有機農業者数の増加

(R6) 45戸 (31経営) → 目標値 (R11) 60戸 (45経営)

学校給食、保育所給食の有機野菜利用率向上

(R6) 37% → 目標値 (R11) 55% *6月と12月、5品目重量

5年間の取組内容

有機水稲

- 最適化を踏まえた技術マニュアルの作成
- 大区画向け栽培体系の確立
- 除草器具の貸し出し体制の充実
- 資本装備の増強(レーザーレベラ、乗用除草機等)
- 有機農業指導員職の創設(会計年度職員)
- 高温耐性品種の導入
- 域内消費拡大(スーパー、自然食品店、直売所等)
- 都市部の学校給食への提供

有機野菜

- 研修圃場の開設と運用
- 学び合いの機会の創出
- 農地情報の収集と提供
- 農業機械の共同利用の促進
- 給食での有機野菜の利用拡大
- いすみそだち認証の取得と販売促進
- 共同出荷体制の整備



評価

いすみ市オーガニックビレッジ推進委員会が進捗や目標値の達成状況を評価する